

当時の思い出

前田 悠 (平成15年度卒業生)

那加中学校創立70周年、心よりお祝い申し上げます。
卒業してからはや14年が経ち、いつの間にか卒業した時の年齢と同じくらいの月日が流れていました。それでも那加中学校での3年間は色濃く記憶に焼き付いています。
体育祭や合唱発表会、特別な思い出を挙げればいくつも思い浮かびますが、今回「当時の思い出」を寄稿して欲しいと言われて考えたのは、一緒に過ごした友人たちとの何気ない日常でした。
同じ目標に向かって一生懸命になったこと、馬鹿な話をしながら一緒に下校したこと、些細なことで喧嘩をしたこと。思い返す全てが感情豊かな思い出で、大人になった今ではなかなか味わえないものばかりでした。
いつの間にか年を重ね、いつの間にか大人と呼ばれる年齢になる中で、いつの間にか忘れてしまう感情なのだろうと思います。それでも、中学3年間の日々が今の自分を作ってくれた大切な時間でした。これからどれだけ年を重ねても、それは変わらないと思います。
あの頃の気持ち、感情のひとつひとつが、何よりも大切な思い出です。

恩師のたより

学年の心をつないだ合唱 金武孝次 (平成15年度3年学年主任)

平成15年度卒業生のことを思い出すと、直ぐに頭に浮かぶのは行事に打ち込む姿です。みんなで作ってあげることこだわった彼らでした。
中でも、合唱に向かう姿勢には目を見張るものがあり、彼らもそれを誇りにしていました。合唱発表会はもちろんのこと、2年生時のスキー研修では、お世話になったホテルの方に向けてゲレンデで合唱をしました。また、修学旅行では訪問した白石島の浜辺でも歌いました。雄大な山や海辺で歌う合唱は、体育館で歌うのとは違った良さがあり、歌う者も聞く者もとてもさわやかな気分になりました。また、ウィーン岐阜管弦楽団の皆さんが来校した折には、オーケストラをバックに「はじまり」「河口」を歌いました。その雄大な演奏は、今も私の心の中に強く残っています。そうした姿勢が認められてか、市制40周年の記念式典で組曲「地球」を歌う機会を与えていただきました。那加中で大切に歌い継がれてきた合唱曲を立派に歌いあげたことは、また彼らの心の宝物になっていることと思います。合唱を愛したからこそ、合唱に愛された彼らでした。



中学校3年間の思い出

田口 紗希 (平成16年度卒業生)

私の中学校生活3年間の中で一番思い出に残っていることは、部活動です。バスケットボール部に所属し、朝練・夕練、休日には、練習試合・遠征・合宿等、バスケットボール漬けの毎日でした。今思えば、部活は楽しい思い出より、辛い思い出の方が多かったのではないかと思います。時には挫けそうになることもありました。先生やコーチに時には厳しく、時には優しく指導を頂き、1つ1つ課題をクリアしていき、挫折を乗り越え、達成感を味わうことができました。
そして何よりも、バスケットボールを通してたくさんの尊敬できる指導者の方、大切な仲間と出会うことができました。忍耐力や精神力を培うことができたのはもちろんですが、競技者として、1人の“人”としての在り方を学ぶことができました。その方々と現在も繋がっており、たくさんの人から支えられ、生き方を学び、生きる力を培うことができました。

恩師のたより

那加中学校での思い出 丹羽 真由美 (平成16年度3年3組担任)

1番の思い出は、体育祭と合唱交流会です。
体育祭はクラスの旗作りから始まり、クラスで大縄とムカデに取り組みました。大縄ではいかに回数を飛ばすか、ムカデではいかに速く走るかを競い、クラスみんなで気持ちをひとつにしてがんばることを目指しました。また、3年生では体育祭に向けてTシャツをデザインし、クラスごとに色を変え、そのTシャツを着て踊りを披露しました。私たちのTシャツは「挑魂」、踊りは「ソーラン節」でした。今でも曲と振りがすぐによみがえってくるほど何度も何度も練習しました。
合唱交流会も当時から本当に力が入っていました。クラスの合唱練習でみんなの気持ちが1つにならず、学級のリーダーと悩みました。何度も話をしたのを覚えています。でも、本番では今までで1番すばらしい合唱になりました。
そして、卒業式の日、1人1人が将来への思いをみんなの前で堂々と話せたその時の頼もしい姿が今でも思い出されます。

